

5月の金融政策、政治・経済イベント

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

4月は、米中貿易問題について、米国が交渉を通じての解決に意欲を示したほか、中国が市場開放策を示したことなどから、過度な懸念が後退し、月半ばにかけて世界的に株式市場が上昇しました。ただし、シリア情勢を巡る地政学リスクが高まるなか、上昇幅は限定的でした。月末にかけては、スマートフォンの需要減速懸念や米長期金利が4年3か月ぶりに3%台に上昇したことなどから、米国を中心に株式市場が下落しました。なお、日本では、為替が対米ドルで円安基調となるなか、月間を通じて株式市場が上昇基調となりました。

5月は、引き続き米中貿易摩擦の問題がリスクとして意識される展開になるとみられます。USTR(米通商代表部)は、4月3日に中国からの500億米ドル相当の輸入品に対し追加関税を課す案を発表しており、5月15日に開く公聴会での意見聴取などを踏まえ、下旬以降に対象品目を確定する予定です。実際に、こうした措置が発動すれば、貿易摩擦が深刻化し、市場の重石となる可能性があります。ただし、米財務長官らが5月初にも訪中し、貿易交渉を本格化させるとみられ、貿易問題解決に向けた動きが期待されます。

また、シリア情勢に加え、イランを巡る地政学リスクにも注意が必要とみられます。トランプ米大統領はイラン核合意の修正案を提出するよう英独仏に求めており、12日までに修正案で合意が得られなければ、核合意から離脱する可能性を示唆しています。仮に米国が離脱すれば、イランに対する米国の経済制裁が再開され、中東情勢が緊迫化し、投資家のリスク回避姿勢が強まると考えられます。英独仏は米国の要求に配慮した案をまとめるなど、米国の離脱阻止をめざしており、欧米およびイランの協議の行方が注目されます。

日本では、16日に1-3月期GDPの速報値が発表されます。輸出や設備投資の改善などを背景に、前期比で9四半期連続のプラス成長になると見込まれています。また、中旬にかけて相次ぐ2018年3月期の企業決算では、良好な世界経済などを背景に好決算の発表が期待されています。ただし、米中貿易摩擦などを巡る先行き不透明感を背景に、2019年3月期の業績見通しは保守的になるとの見方が強まっています。

5月の注目される金融政策および政治・経済イベント

5月	予定
1日(火)	●米国、FOMC(連邦公開市場委員会、~2日)、■米国、4月のISM製造業景況指数、●オーストラリア、金融政策決定会合、■日本、国債発行の決済期間を短縮(入札の翌営業日に)
2日(水)	■ユーロ圏、1-3月期GDP(速報値)
4日(金)	■米国、4月の雇用統計
9日(水)	●英国、金融政策委員会(~10日)、■日中韓首脳会談(予定、東京)
10日(木)	●ニュージーランド、金融政策決定会合、■米国、4月のCPI(消費者物価指数)
12日(土)	■米国、イラン核合意からの離脱の是非を判断する期限
15日(火)	●ブラジル、金融政策決定会合(~16日)、■米国、USTR(米通商代表部)の対中関税に関する公聴会
16日(水)	■日本、1-3月期GDP(速報値)
17日(木)	●メキシコ、金融政策決定会合
23日(水)	●米国、5月1~2日のFOMC議事録公表
31日(木)	■中国、5月の製造業PMI、■G7財務相・開発担当相・中央銀行総裁会議(カナダ・ウィスラー、~6月2日)
下旬以降	■米朝首脳会談(5月下旬~6月初)

●金融政策関連
■政治・経済関連

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。スケジュールは予告なしに変更される可能性があります。)
※上記は過去のものおよび予定であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。